

I 教育

推進分野の背景と方向性

社会のデジタル化、グローバル化、高齢化、人口の減少などの様々な社会の変化に伴い、高等教育に対しては未来を支える人材の育成が期待されている。本学では建学の精神である「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を軸とした発展的教育を今後さらに展開していく。併せてデジタル技術を活用した教学IRの推進を図り、学修成果の可視化を推し進めながら、学修意欲の向上や個々人の可能性を最大限に伸長する学修者本位の教育を実現する。また、単に知識や技能の習得に留まらず、教育成果を実践・応用する力を育み、学生自らが課題を発見し、創造的な解決へと導くことのできる能力を備えた人材の育成を実現するために学修環境の整備を一層進めていく。これらをもって、「UMEMURA VISION 2033」に示す「真実の美、行動の美、人間の美」の追求を通じ、社会にとってなくてはならない人材の輩出を実現していく。



推進事項 1

新たな時代を切り拓く 教育の推進

デジタルイノベーションが進み、人々の生活様式は大きく変化している。そのような社会の中で新たな価値を創造できる人材、現状を把握・分析することで課題発見力を高め、直面する問題を柔軟に解決できる能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、数理・データサイエンス教育や問題解決型学習、持続可能な開発のための教育等を充実させ、新たな時代を切り拓く力を身につけることができる教育を推進する。また、従来の学問や専攻を超えた幅広い専門教育を実施することで学術を進化・深化させつつ、総合大学としての強みを活かし、専門知の新たな組み合わせの模索や学部の特長にとらわれない教育を展開することで、広い教養と多様な価値観を涵養し、総合知を活用したイノベーションの創出を目指す。加えて、建学の精神は、人間同士の直接的なコミュニケーションが希薄になりつつある社会において、ますます必要とされる人としての素養である。この建学の精神に基づいた中京大学の特色を活かした教育も展開する。

主な施策

- 1 中京大学の特色を活かした教育の展開
- 2 新たな価値を創造する人材を生み出す多様で柔軟な教育プログラムの推進
- 3 問題解決に必要な基盤をつくる教育プログラムの推進

推進事項 2

教育の質向上に資する 教育制度等の充実

大学教育の質を向上させるためには、客観的な評価を行い、それに基づく改善を常に行う必要がある。そのため、これまでも取り組んできた教学マネジメントを、デジタル技術の活用や教学IRの推進などによりさらに強化する。また、学生の学修意欲を向上させ、学修者本位の教育を実現するため、これまでの制度にとらわれない新しく柔軟な教育制度を構築する。オンライン教育が普及し、そのメリットを活かすことで、場所や時間にとらわれない自由で発展的な学びを展開することが可能となったように、新しい教育手法の導入を積極的に推進する。提供する授業の仕組み、授業の手法、そして教育制度の改善とともに、教育内容や学修成果を適切に可視化して評価したり、成績評価(GPA)を実質化することで次世代を担う学生の教育の質向上を目指す。

主な施策

- 1 教育の質向上に資するデジタル技術を活用した教学IRの推進
- 2 学生の学修意欲を向上させ、学修効果を高める教育プログラムや制度の推進
- 3 新たな学びの形に対応する授業設計支援

推進事項 3

学修効果・学修意欲を 向上させる学修環境の整備

学生の学修意欲を向上させ、高い学修効果を得るためには、教育内容、教育制度とともに教育をうける環境の整備も必要である。整備の方針として、10年後の学修環境やシステム及び情報サービスの変化を見据え、各種ICT環境を整備・強化することや、地域の他大学や企業との連携を深め、地域のリソースを活用しながら幅広い教育が受けられるような学修環境を整える。また、多様な学生が自由に学修できるインクルーシブな学修環境も整備する。さらに、個々の能力をそれぞれの状態に合わせて十分に伸ばすことができるような発展的支援体制の整備(たとえば、ライティングセンターの設立など)を進める。

主な施策

- 1 学外機関との連携を活かした多様な教育プラットフォームの構築
- 2 多様な学生が自由かつ主体的に学び学修意欲を高めることができる環境の整備
- 3 個々人の可能性を最大限に伸長する学修環境の整備